

「突撃一番」は生きていた!

オカモト糾弾! 2・8集会



・プログラム・

1. 経過報告

2. 資料説明

3. 問題提起

朝鮮人従軍慰安婦問題を考える会
性暴力を許さない女の会

ファンボ カンチャ
皇甫麻子さん
黒原洋子さん

4. 海外からの抗議団体紹介

5. 実行委員会からのアピール

6. 誓望書の確認

主催者 2・8集会実行委員会

- ・性暴力を許さない女の会
- ・朝鮮人従軍慰安婦問題を考える会
- ・セクシャルハラスメントと闘う労働組合はあぶる
- ・大阪府高等学校教職員組合女性部
- ・大阪教育合同労働組合女性組合員有志
- ・堺市女性団体連絡協議会
- ・日本女性学研究会有志
- ・コマーシャルの中の男女役割を問い直す会

(順不同)

経過報告

- 1992年9月 性暴力を許さない女の会のスタッフがディスカウントショップで「突撃一番」というコピーの入ったコンドームを発見。商品名は「ラバーマン」という。
- 10月23日 性暴力を許さない女の会がオカモトに抗議文を送る。
朝鮮人従軍慰安婦問題を考える会に問題提起。新聞各社にfaxを流す。
- 10月30日 毎日新聞夕刊関西版に「『突撃一番』は非常識」と掲載される。
- 10月31日 毎日新聞を読んで大阪府高等学校教職員組合女性部がオカモトへ抗議文を送る。
- 11月2日 朝鮮人従軍慰安婦問題を考える会がオカモトへ抗議文を送る。
- 11月18日 回答が来ないのでオカモトへ電話を入れる。オカモトの大久保企画広報室長代理が「新聞記事は真意を伝えていない。お会いして伝えたい」と語る。
- 11月26日 オカモトの大阪支社で話し合う。
オカモトからは佐野取締役総務部長と大久保総合企画室長代理が参加し、女性側は性暴力を許さない女の会、朝鮮人従軍慰安婦問題を考える会、大阪府高等学校教職員組合女性部、堺市女性団体連絡協議会とが参加。
オカモト側はそれぞれの抗議文に対する回答すら用意しておらず「戦争を意識していた訳ではなく、従軍慰安婦問題と関連してイメージされたのに驚いている。この商品は5年前に4700グロス製作して、売れ残った約半数は廃棄処分にした。それ以後作っていない」と言うばかりで、一言の反省も謝罪もせず。無礼極まりないオカモト側の態度に「キチンと会社としての見解を持ってからもう一度話し合おう」ということになり、12月5日までに抗議文への回答を送ることと、12月17日に2回目の交渉を行うことを要求するとオカモト側は「努力します」と答える。
- 12月10日 5日を過ぎても回答が届かないのでオカモトに問い合わせの電話を入れる。「約束した覚えはない。回答についてはまだ検討中である。17日の交渉も検討中」という対応だった。「努力すると答えたのなら『努力してもだめでした』と報告するのが当然だ。こちらから連絡するまで何も言わないのは不誠実である」とせまると「17日については追って連絡します」と答える。2～3日後、性暴力を許さない女の会の留守番電話に「17日は行けません」と入っていた。

※※※※※この時期から年末にかけて幾つかの団体にオカモトへの抗議文を要請する。
その中からセクシャルハラスメントと闘う労働組合ばあぶると大阪教育合同労働組合が抗議文を送る。

年末年始を通じて音沙汰のないオカモトに業を煮やし、糾弾集会の準備に入る。

1993年1月26日 当日発売の情報誌「ぴあ」関西版のバレンタインプレゼントのコーナーに「ラバーマン」の写真を発見！（「突撃一番」のコピーは見えていない）

1月28日 オカモト大阪支社の前と最寄り駅で2・8集会のチラシ配り。
「ぴあ」の記事について編集部に問い合わせたところ「商品は企業の提供です」との回答を得る。

2月1日 「ぴあ」についてオカモトに確認の電話を入れる。大久保企画室長代理が「関知していない」と回答。「ぴあ編集部は企業からの商品提供があったと言っている」とせまる。語気鋭い若干のやり取りの結果「抗議文への回答はいまだに検討中」で「話し合いについては答えるべき立場に無い」ということと「この件についての最終責任者は佐野取締役総務部長だ」ということがわかった。すぐに佐野取締役総務部長に電話したが留守だった…。

抗議文

当会は女性に対する性暴力を社会からなくしていきたいと活動している女性グループです。当会は貴社が製造・販売しているコンドームのパッケージに「突撃一番」というコピーを使用していることに對し、嚴重に抗議し、商品の発売中止と回収を要求いたします。

この「突撃一番」とは、旧日本軍が第二次世界大戦中に兵士に支給していたコンドームと同じ名前です。兵士達は兵舎を出る時や、従軍慰安婦の慰安所に入る時には、必ずこの「突撃一番」を渡された、といひます。その兵士達が従軍慰安婦を始めとした女性達にどれほど殘虐な性的虐待を加えていたかは様々な証言、資料により明らかにされています。「突撃一番」と言えば、コンドームの代名詞であり、その名前を聞けば、日本軍兵士による数々の性的虐待を連想せずにはいられないのです。

更に、兵士に支給されたコンドームは貴社の前身である「国際ゴム」が製造したものと聞いています。それも、軍需品として生ゴムの配給を優先的に受け製造されていたものです。これは、貴社が旧日本軍による兵士の性管理に協力する役割を果たしてきたことにほかなりません。そして、現在もコンドームの日本での販売シェア一位という業界最大手としての社会的責任も認識していただかなくてはならないでしょう。

従軍慰安婦問題をめぐって日本政府に対する告発、批判が高まっている中で、こうした名前を使ったコンドームを堂々と製造・販売しているということは、日本人としてあまりにも不誠実で悪質な行為といわざるをえません。以上述べた理由により、重ねて嚴重に抗議し、以下の点について要求いたします。

- 1、即刻、販売を中止し、市場に出回っている商品についてはすべて回収すること。
- 2、新聞の五大紙（朝日、毎日、読売、産経日経）に謝罪広告を掲載すること。
- 3、アジア諸地域の女性達に対して謝罪の意志を伝えること。
- 4、以上の要求に対する態度表明を十一月十日までに当会まで回答すること。

1992年10月23日

性暴力を許さない女の会

オカモト株式会社
代表取締役 殿

オカモト株式会社が製造販売している「ラバーマン」のパッケージに印されている「突撃一番」というコピーによる商品で利潤を得ていることに、私達は体の底から沸き上がる怒りを押えることは出来ません。かつて、日本軍が戦時下アジア各地を侵略し、多くの朝鮮人従軍慰安婦を連行したことは、明白な歴史事実です。あるいは、国際ゴム工業株式会社として製造にかかわった企業として知らないはずはない。

「戦争高揚」「強姦予防」「性病予防」のために、天皇の下賜品とされ送り込まれていた朝鮮人従軍慰安婦達。兵士達は、「突撃一番」というコンドームを片手に、彼女達の性と人間性を蹂躪し続けたのです。

元慰安婦達の多くは、今もなお過去の苦しみから解放されずにいます。オカモト株式会社は、こうした歴史事実を認識せず、過去を反省することなく、戦前・戦後も一貫して利潤のみを追求しています。このような厚顔無知な企業態度に、私達は怒りを持ってここに抗議致します。

オカモト株式会社が次の二項目をすみやかに行うことを要求します。

一、「突撃一番」のコピーが印刷されている商品の即時回収及び製造中止をすみやかに行うこと。

二、日本国内五大新聞に「突撃一番」の製造販売に関する会社側の歴史事実の認識と、製品販売に関する謝罪文を掲載すること。

右、二項目を十一月三十日迄に会社側の回答を要求致します。

西暦一九九二年十一月二日

大阪府福島区大開四丁目三番二号

三〇五号

朝鮮人従軍慰安婦問題を考える会

代表 朴 美津子

東京都文京区本郷三丁目二十七番十二号

オカモト株式会社

代表取締役殿

『突撃一番』への抗議ならびに質問・要望書

十月三十日付新聞報道により、貴社がコンドームのキャッチコピーとして『突撃一番』を使われていたこと、しかも「深く考えて使用したのではない」とコメントされていることを知り、ここに、そのことに対する抗議の意をお伝えするとともに、質問・要望書を送らせていただきます。

『突撃一番』は、貴社の前身である「国際ゴム」より、軍需品として野戦貨物廠↓各師団・連隊・大隊↓中隊↓各兵員へと流通した製品です。一九四一年からの支給といえますから、『突撃一番』＝軍隊「慰安所」での性行為であったことは、貴社自身が最もよくご存じのはずです。

最も親密なセクシユアル・コミュニケーションであるセックスを、『突撃一番』は、男性による女性支配、征服の行為へと貶めます。女性のセクシユアリティ、人権を侵害するのはもちろんのこと、男性のセクシユアリティをも歪めてしまうのです。女性差別撤廃、女と男の対等・平等な社会をめざして取り組みを進めている私たちにとって、このような歪んだ性意識を温存・助長する行為は見過ごしにできないものです。

貴社が『突撃一番』のコピーを使用した一九八七年の時点では、「慰安婦」問題は今日のように大きな社会問題としては報道されていなかったようです。しかし、すでに吉田清治さんや千田夏光さん、金一勉さんの著作によって、または日本テレビ製作のドキュメンタリーによって、「慰安所」という名の強制売春施設（国家によって設置された集団強姦装置）の実態はかなり知られていました。にもかかわらず、『突撃一番』の採用にあたって「深く考え」なかったというのは、どういうことなのでしょう。理解できません。

商品広告などというものは、幾度もの企画会議を経て、効果的であると認められたものが採用されるのはありませんか？「深く考えて使用したのではない」を、「女性蔑視の意図はなかった」の意味で言われたのであれば、現在の社会状況についての認識が不足しすぎています。本当に軽い気持ちで採用されたのなら、歴史的経過についてあまりに配慮がなさすぎます。

私たちが「教え子を再び戦場に送るな」をメインスローガンに掲げるのは、日本の植民地支配・侵略戦争を支えた教育の責任を深く自覚して行きたいと考えるからです。さらに、反戦・反差別の教育を課題として行うと考えるからです。企業活動においても、その社会的責任を自覚された上で、今回のような問題には正面から取り組んでいただきたいと思い、左記のような質問事項と要望事項をあげました。よろしくご回答のほどお願い致します。

記

質問事項

- 一、キャッチコピー『突撃一番』採用当時の経過を明らかにしてください。
- 二、『突撃一番』を採用したことについて、現在の考えを聞かせてください。
- 三、人権についての企業内研修、啓発活動は、どのように行われていますか。

要望事項

- 一、謝罪広告等で『突撃一番』というコピー採用の不見識を明らかにしてください。
- 二、広告製作の際には、女性と男性との対等なセクシユアル・コミュニケーション創造につながるように配慮してください。
- 三、日本の戦争責任・戦後責任、植民地支配などの歴史的経過、女性差別・民族差別の社会的背景について研修・啓発活動を企業として行ってください。特に「従軍慰安婦」問題について、国際的視点を持った認識を持つてください。

以上

抗議文及び要望書

私も「大阪教育合同労働組合」の女性解放担当者及び女性有志は、オカモト株式会社が「ラバーマン」というコンドームに『突撃一番』というキャッチコピーをつけて販売していたという犯罪的な行為に対し、厳重に抗議し、以下のことを要求します。

一、以下の質問に対して誠実に釈明すること。

- (1) 日本が戦時中行っていた朝鮮人・中国人等の従軍慰安婦政策に、オカモト株の前身である「国際ゴム」が関与し利潤を得ていたことについて、また、国を挙げての集団強姦に加担していたことにしていたことについて、社内でのどのように総括しているのか。その内容について述べよ。
- (2) コンドームは「避妊」という女性の心身の自立権を保障するために用いられるべきだという認識が社内にあるのか。今回の『突撃一番』というネーミングは、女性の性的自立権・自由権とは大きくかけ離れていると思えない。ここでいう「突撃」とは誰の誰に対する「突撃」なのか社内での見解を明確にせよ。
- (3) エイズのような社会問題にも「コンドーム」は今後も大きな役割を果たすことになる。加えて、「妊娠中絶」のように女性の人権に関わる問題にも「避妊具」の製造販売に携わるオカモト株としては無関心であるべきではないと思うが、人権に関わる問題について「コンドーム」の担う社会的意義を社としてどのように考えるか。

二、製品の徹底的回収。五大紙、週刊誌、業界紙、全てを用いて回収のよびかけを行なうこと。

三、『突撃一番』というキャッチコピーを見て、不快感・恐怖感・嫌悪感を感じ人権を侵害されたと感じたあらゆる人に届くように五大紙、週刊誌、月刊誌等に謝罪文と今後の社の方針を載せること。また、この問題は、アジア・太平洋戦争の戦争犯罪と深く結びつい問題でもあり、日本人としての良識の問われる問題でもある。従軍慰安婦を初めとした海外に在住する日本による戦争被害者にこのことに対するオカモト株の反省の声が届くように、国内と同様の謝罪表明と将来に向けての方針を伝わるような形で出すこと。

四、社内研修等で人権教育を行なうこと。とりわけ、社内での方針決定や管理などの重要なポストにいる男性は熱心に学習し、二度と同じ轍を踏まぬようにすること。

五、『突撃一番』『鉄かぶと』といったオカモト株の商標は、今後も社で責任を持って引き受け、社史の批判的側面として位置づけ教訓化していくこと。

以上、我々の抗議を含めた五つの要求に対する回答を早急に送付すること。

〒530 大阪市北区天満2-1-17 金屋ビル3F

大阪教育合同労働組合 女性解放担当 大澤

要望書

以下の要望に対し誠実に回答することを要求します。

1. 今回抗議を受けた「突撃一番」について、その抗議の内容を正確に誠実に理解した上で 企業としての見解を明確に示すこと。 とりわけ、この「突撃一番」ということばが、現在及び過去において、誰による、誰に対しての「突撃」であるのかを示せ。
2. 1. の見解をふまえた上で戦時中及び現在に至るまで性暴力社会の中で生きてきた国内外の女性に対し、企業の責任を自覚し、謝罪文を出すこと。新聞等、マスコミを通じて、国内のみならず過去の侵略戦争時に痛烈な被害を及ぼした国・地域に居住する国外の女性たちにも貴社の姿勢を伝えるような方法を用いること。
3. 「突撃一番」「鉄かぶと」等、性暴力の攻撃性をあおり立て、助長拡大するコンドームの商標については手放さず、批判すべき社史ととらえ教訓化していくこと。決して 国・軍部といった方向に責任転嫁せず、自社の責任ととらえ、研修等を通して社内に全体化していくこと。
4. 再びコンドームの名称が女性に対する攻撃を肯定する、あるいは一助を担うようなものにならないためにも、女性を守る製品として貴社の姿勢を明確に示すべきである。 そのために、コンドームのパッケージ・包装紙に「女性の嫌がる性行為はすべて強姦です」という文字をいれること。

セクシャルハラスメントと闘う労働組合ばあぶる

要望書(案)

私たちは、昨年(92年)9月に「突撃一番」というコンドームを発見し、直ちに抗議活動を始め、5団体から抗議文を送りました。しかし、1度交渉をもったにもかかわらず、貴社は何の反省もせず、回答もしていません。私たちは、このような無責任で不誠実な対応に対して、本日、抗議集会をもちました。集会参加者一同の総意で、以下のように要望します。

- 1 戦争中、貴社は軍需品「突撃一番」を製造し、国策としての「従軍慰安婦政策」(集団強姦行為)に加担しました。そのことに対する企業責任を自覚し、被害を受けた国内外の元「従軍慰安婦」に対し、謝罪すること。
- 2 五十年も経た現代において、「突撃一番」という名称を冠した商品を製造・販売したことの犯罪性を自覚し、二度と同じあやまちを繰り返さないために、社内研修を徹底し、批判すべき社史として教訓化すること。
- 3 「突撃一番」という言葉をコンドームに使用することは、紛れもなく強姦を連想させます。このような態度をただちに改め、貴社のコンドームのパッケージに「女性の望まない性行為はすべて強姦です」という一文を入れること。

2・8集会参加者一同

オカモト株式会社殿

日本のコンドームとオカモト(株)の歴史

- 1909 (昭和42) ◎国産コンドーム第1号「ハート美人」製造開始
「小夜衣」「大和夜」「敷島サック」等次々と売り出される
- 1914 (昭和3) 第一次世界大戦始まる
◎ヨーロッパ諸国から軍需用としてコンドームの注文殺到
※当時は天然ゴム製で、熱に弱く、腐りやすいため長期保存できず、航海中に製品がぐちゃぐちゃになってしまった。
- 1933 (昭和8) ◎岡本巳之助が、溶けないゴム、ラテックス製コンドームを開発
- 1934 (昭和9) ◎岡本巳之助、岡本ゴム工業所設立 ゴム
- 1936 (昭和11) ◎岡本ゴム工業所を法人化して、国際護謄工業株式会社（社長岡本巳之助）設立。資本金10万円（以下『国際ゴム』と略す）
- 1937 (昭和12) 日中戦争始まる。
※戦地向けコンドーム需要増大、国際ゴムの生産量も増大
◎日本政府、北満洲鉄道をソ連から買収、ソ連は代金を種々の機械で支払うよう要請。その中にコンドームの自動生産機が含まれていた。この製造を国際ゴムが引き受ける。
- 12月 ◎ゴム工聯（生ゴムの配給割り当てを決める商工大臣指定の統制団体）生ゴムの配給統制実施
◎商工省、生ゴム配給統制要綱発表
- 1938 (昭和13) ◎国際ゴム、コンドーム自動生産機第1号完成。ソ連に輸出
- 4月 国家総動員法公布
- 7月 ◎ゴム配給統制規則公布、即日実施
- 1939 (昭和14) ◎国際ゴム、臨時陸軍東京経理部指定工場となる
- 1940 (昭和15) ◎国際ゴム、増資。資本金19万円
- 1941 (昭和16) 「人口政策確立要綱」人為的産児制限の禁止
※一般用コンドームの生産は著しく低下
その一方で「鉄カブト」「突撃一番」などの軍隊用コンドームは多量に生産
- 6月 ◎商工省、ゴム産業整備実施方針発令
- 9月 ◎国際ゴム、企業整備の結果、残存許可。大阪ゴム製造所（以下『大阪ゴム』）、杉山ゴム工業所を合併。大阪ゴムは「ハート美人」などを作っていた業界の名門。この合併により、国際ゴムは大幅に技術向上。規模も業界一となる。

「『突撃一番』は大阪ゴムで作っていたものです。国際ゴムは、リバノールスキンという黄色いスキンを作っていて、海軍が主体でした」（証言：岡本鉄男）

※大阪ゴムは国際ゴムの葛飾分工場となり、戦後独立して不二ラテックスとなる。社長岡本忠男（巳之助の弟）

12月 太平洋戦争勃発

1943 (昭和18) 1月 ◎ゴム工聯が発展的解消してゴム統制会創立。岡本巳之助は、ゴム統制会医療ゴム部会の委員を務めている

2月 ◎国際ゴム、陸軍需品本廠管理工場、陸軍造兵廠の監督工場となり、軍当局の一機関として約2倍の増産拡充を行なう

軍需品の受注高は前年度に比較し、約200%強となり、これを完納するため自動生産機12台を漸次建設。一部屑ゴムの再生を行ない、資材の不足を補う。コンドーム以外の軍需品生産も開始。

「十八、九年頃は、会社はフル操業で、二十四時間一時も機械は止まらない…」（証言：岡本鉄男）

「…当時スキンの原価は一個一円一銭、軍に納入する価格が一円二十銭か三十銭でした。資材などは何から何まで軍から支給される…中略…買い上げは全部軍がする」（証言：穴倉正男）

4月 ◎増資。資本金45万円

1944 (昭和19) ◎朝鮮・京城（現在のソウル）に岡本護謄工業所建設

1945 (昭和20) ◎国際ゴム、福島に疎開工場建設、一部操業開始

2月 ◎増資。資本金120万円

8月 終戦

12月 ◎ゴム統制会解散、ゴム統制組合設立

1947 (昭和22) 8月 ◎国際ゴム、岡本ゴム工業株式会社に商号変更

1950 (昭和25) 朝鮮戦争勃発を機に、世界的にゴム原料値上がり。前年の3倍。
※この年、岡本ゴム工業(株)は未曾有の業績

8月 ◎増資。資本金500万円

1968 (昭和43) ◎岡本ゴム工業(株)、日本理研ゴム(株)と合併⇒岡本理研ゴム(株)

1985 (昭和60) ◎岡本理研ゴム(株)商号変更⇒オカモト株式会社

1992 (平成4) ◎「突撃一番」の文字が印されたコンドーム「ラバーマン」枚方市内のディスカウントショップ店頭で発見される

現在のオカモト株式会社

資本金 76億2426万円
(東京第一部上場信用銘柄)
(大阪第一部上場)

91年の売り上げ額 950億円

代表取締役社長 岡本多計彦

従業員数 2300名

関連会社、ミシュランオカモトタイヤ㈱、

リーボックジャパン㈱等、多数

※国内のコンドーム業界は、オカモトを含む

大手3社で95%のシェアを占め、

オカモトは国内56%のシェアを持つ

トップメーカー(日本第1位、世界第2位)

国内向け年間総量約4百万グロス

(約5億7千6百万個)

オカモトの全製品中

コンドームは10%くらいだという。

人口問題に積極的に取り組む

オカモトの医療事業。

本当は何より大切なことなのに、
面と向きあうと照れてしまう、そんな問題があります。
たとえば、愛について。あるいは、性に関して。
オカモトは、だからこそ一層真剣に取り組むたいと思います。
照れることなく、確かな情報をきちんと伝えたいと考えます。
オカモトはスキンのトップメーカーです。
またオカモトのスキンは、人口問題や、
エイズ等STD(性行為感染症)の予防手段として、
また製品の優秀性と技術の高さを
内外から注目を集めています。
オカモトは、社会的見地から
STD予防問題に関する正しい知識の普及、
啓蒙を図るため、社内に専門係をいち早く設置。
お役に立てるよう努力しています。また、スキンの品質に
自ら厳しい基準を設け、確かな製品だけをおとどけています。
オカモトは、今、思います。そして、信じます。
誰もが素直に愛について語り合えたとき、
本当の平和が訪れる、と。

○オカモト㈱の会社案内より

本社 東京都文京区本郷3丁目27番12号〒113-91
電話(03)3817-4111
大阪支店 大阪府中央区糸屋町2丁目4番6号〒540
電話(06)946-9221
名古屋営業所 名古屋市中区栄4丁目19番地〒461
電話(052)961-0776
福岡営業所 福岡市中央区赤坂1丁目10番地26号〒810
電話(092)741-3021
仙台出張所 宮城県宮城郡利府町しらかし台6丁目11番3号〒983
電話(022)356-7170

参考資料◇オカモト株式会社1992年会社案内

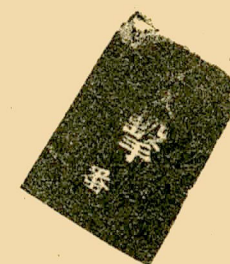
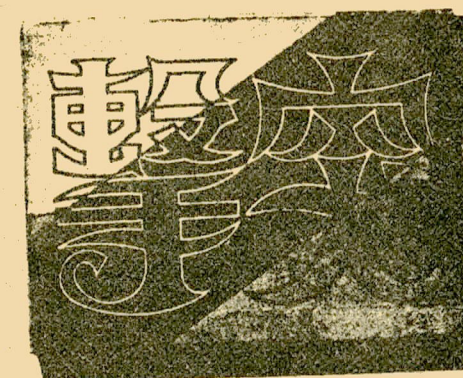
◇岡本理研ゴム株式会社五十年史

◇Condom&STD:日本家族計画協会発行

◇オカモト工場見学まんがレポート

:ヒューマンセクシュアリティ/1991年11月号掲載: 鶴東山書房発行

戦前の「突撃一番」のパッケージ



なんと、岡本理研ゴムKK
五十年史「展開」には
戦前の名ブランド「突撃一番」
と書いてあった?

そしてこれが
現在の「突撃一番」だ。

